

令和6年度 事後評価シート(細施策)

施策	● ×××××××
K G I	①○○○の実施率【基準値】××.××% (令和4年)【目標値】×××%

【細施策シート】

細 施 策		28-99 ※※※※の推進		KGI種別: 上がると良い指標		施策KGI		①			
K G I		この一年間に、●●●した人の割合(アンケート)				達成率≥100%:達成、達成率<100%:未達成					
		KGI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	21 %	目標値	23.3 %	目標値	25.6 %	目標値	27.9 %
		基準値	18.7 %	実績値	11 %	実績値	25 %	実績値	%	実績値	%
			達成率	52.4 %	達成率	107.3 %	達成率	0.0 %	達成率	0.0 %	
ストック/フロー	フロー	成果進捗評価	不調	成果進捗評価	順調	成果進捗評価		成果進捗評価			
6 年 度	要因分析 【必須】	(実績値、達成率の要因について、外的要因も含め具体的にデータ等を用いながら様々な視点を踏まえて記入) ○○事業や××事業により、●●●に取り組む機会の創出を図ったが、△△の影響で●●●活動への参加を見送る人が前年度比※※%増となり、目標達成には至らなかったと考えられる。									
	改善の方向性 【必須】	KGIの目標達成に向けて、△△の影響を払しょくするためには、◆◆で示されているように○○の強化が有効と考えられることから、□□の支援等により対策を強化することを検討するとともに、○○を促進するための新たな取組みも合わせて検討する。 ストック: 成果を複数年の累計値で表す指標 フロー: 単年の成果を表す指標									

構成事務事業の評価結果も踏まえて、細施策の成果向上に向けた構成事務事業の見直しや新規事業の必要性について検討のうえ記載してください。
また、下記の視点により、新規施策等検討会議や次年度当初予算に向けた重点化(テコ入れ)すべき

項 目	視 点	主 な 判 断 ポ イ ン ト
重要度	細施策が総合計画の施策目標の達成に向けて重要かどうか (施策KGIとの関係性に着目)	①施策KGIとの因果・相関関係 (施策KGI向上に貢献することを定量的または論理的に説明できるか) ②細施策間の相对比较 (部局が所管する細施策を比較検討し、相対的に重要な細施策であるか) ③KGI向上余地 (構成事務事業を見直しまたは継続することで、さらなるKGI向上が見込めるか) ④テコ入れの必要性 (施策KGIの成果向上に向けてのボトルネック、全国順位が低い等)

令和6年度 事後評価シート(事務事業)

【事務事業シート】

全事項対象	1 当初	事項	〇〇〇推進事業費				予算主管課		×××課		
	事業概要	事業概要	×××により、△△△につなげ、●●●				始期	2021			
			●●●件数				終期	2024			
		KPI	KPI種別	上がるという指標	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度			
			R 4 年度	目標値	150 件	実績値	120 件	実績値	達成率		
政策的経費のみ対象	5 年度	要因分析	実績値	80 件	達成率	53.3 %	達成率	48.0 %	KGI種別: 上がると良い指標 = 実績値 ÷ 目標値 KGI種別: 下がると良い指標 = 目標値 ÷ 実績値		
			ストック								
			コスト	最終現計 予算額	1,000 千円	最終現計 予算額	1,000 千円	最終現計 予算額	千円	決算額	千円
				決算額	990 千円	決算額	990 千円	決算額	千円	決算額	千円
最終年度は記入不要	5 年度	見直し方向性	要因	●●●を実施したことで上半期は前年度比〇〇%増と順調に推移したものの、×××の影響で〇〇〇が発生し、下半期の実績が前年度比△%減と伸び悩んだため、未達成となった。 「達成率100%未満」の場合、要記入。実績値が目標達成しなかった要因を外的要因も含め具体的にデータ等を用いながら様々な視点を踏まえて記入。							
			総括	●●●の実施により、3 年間で新たに××の地域で〇〇〇の取組みが開始するなど、KGI実績値の向上に好影響を与えることができた。令和7年度以降は、民間主導により横展開を図り、全県に取組みを浸透させる。 事業最終年度の場合、要記入。「何ができたか」と今後の展開について記入。							
			【記載例】	〔維持の場合〕5 年度の実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、6 年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6 年度の執行方法や7 年度予算の見直しは想定していない。 〔廃止の場合〕□月までに〇〇〇が実現すれば、当初の目的を達成したと考えられることから、予定通り廃止する予定。/ 5 年度の実績値は、非常に好調であるが、〇〇のため、6 年度中には頭打ちになると考えられることから、6 年度に事業終了の方向で検討する。/ 当初想定していた事業効果が見られず、細施策KGIとの相関関係もないと考えられることから、6 年度に廃止を検討する。/ 事業終了は8 年度であったが、5 年度時点で最終目標を達成しており、当初の目的を達成したことから、6 年度に廃止を検討する。 〔改善の場合〕5 年度の目標達成率が想定よりも低調であったことに加え、〇〇という現状を踏まえると6 年度も同様の状況が見込まれるため、6 年度の執行から、●●●の周知を××まで拡げる改善を図り、対象の新規掘り起しを行い、更なる成果の向上につなげる。/ 細施策KGIとの相関関係も高く、6 年度も目標値以上の成果向上が見込まれることから、7 年度はKPI目標値引上げを図るとともに、事業内容を拡充する。 〔大幅見直しの場合〕KPIの実績値が伸び悩んでおり、6 年度も〇〇という状況を踏まえると同様の状況が想定されることから、このまま回復の兆しが見られなければ、7 年度において、事業対象や手法も含めて大幅な見直しを検討する。							
			見直し内容の説明: 見直し時期(執行に反映するか、次年度予算(※R6年度事業評価の場合、R8 年度予算に反映するか)も記載								
			見直し方向性は、下記「事業推進マトリクス(見直し方向性を「示唆」するもの)」及びKPI実績値の要因分析や事業継続評価等を踏まえ、検討を行ったうえで選択してください。 「維持」「廃止」「改善」「大幅見直し」から選択								

●事後評価マトリクス(事業の見直しの示唆)

